



Oracle® Smart View for Office

Release 11.1.2.5.200

Readme

ORACLE®

CONTENTS IN BRIEF

目的	2
このリリースでの新機能	2
インストール情報	2
64 ビット Microsoft Office のインストールに関する情報	10
サポートされているプラットフォーム	11
サポートされている言語	12
サポートされているこのリリースへのパス	13
このリリースで修正された問題	13
リリース 11.1.2.5.000 で修正された問題	17
既知の問題	22
ヒントとトラブルシューティング	34
ドキュメントの更新事項	35
ドキュメントのフィードバック	37
アクセシビリティの考慮事項	38

目的

このドキュメントには、このリリースの Oracle Smart View for Office に関する重要な最新情報が記載されています。Oracle Enterprise Performance Management System および Smart View をインストールする前に、この Readme をよくお読みください。

このリリースでの新機能

Oracle Smart View for Office New Features を参照してください。

このリリースでのインストール、アーキテクチャおよびデプロイメントの変更に関係のある新機能については、Oracle Enterprise Performance Management System Readme のこのリリースでの新機能に関する項を参照してください。

Note: Oracle Smart View for Office User's Guide には、今後の Oracle 製品オファリングである Oracle Planning and Budgeting Cloud Service への参照が含まれていません。Oracle Cloud で Oracle Planning and Budgeting Cloud Service が使用可能かどうか確認してください。

リリース 11.1.2.0、11.1.2.1、11.1.2.2、11.1.2.2.300、11.1.2.2.310 または 11.1.2.3 からアップグレードする場合は、Cumulative Feature Overview ツールを使用して、これらのリリースの間に追加された新機能のリストを確認します。このツールによって、現在の製品、現在のリリース・バージョン、およびターゲット実装のリリース・バージョンを識別できます。このツールでは、1 回クリックするだけで、現在のリリースとターゲット・リリースの間に開発された製品機能の概要を必要に応じて組み合わせて生成することができます。このツールはこちらにあります:

<https://support.oracle.com/oip/faces/secure/km/DocumentDisplay.jspx?id=1092114.1>

インストール情報

Subtopics

- [Oracle Technology Network または My Oracle Support からのインストール](#)
- [EPM System での自動デプロイメントによるインストール](#)
- [EPM Workspace からのインストール](#)
- [Oracle BI EE からのインストール](#)
- [ローカルまたは Web サーバーにインストールするヘルプのダウンロード](#)

Smart View 11.1.2.5.200 では、64 ビット・バージョンと 32 ビット・バージョンの Microsoft Office 用に 1 つのインストーラが使用されます。

Note: インストーラは、コントロール・パネルにある Windows の「地域と言語」ダイアログ・ボックスの「形式」フィールドに設定されている言語で自動的に表示されます。

EPM System 製品のインストールに関する最新情報は、Oracle Enterprise Performance Management System Installation and Configuration Readme を参照してください。EPM System 製品をインストールする前に、ここに記載された情報をよくお読みください。

Oracle Technology Network または My Oracle Support からのインストール

▶ Smart View を Oracle Technology Network (OTN) または My Oracle Support (MOS) から直接インストールするには:

1 開始する前に、Microsoft Office アプリケーションをすべて閉じます。

2 Smart View の zip ファイルを OTN または MOS からダウンロードします:

- OTN から:

<http://www.oracle.com/technetwork/middleware/smart-view-for-office/overview/index.html>

- MOS から:

<https://support.oracle.com/epmos/faces/MosIndex.jspx>

3 一時的な場所にファイルを解凍します。

4 SmartView.exe をダブルクリックして、インストール・ウィザードを開始します。

5 Smart View の宛先フォルダを選択し、「OK」をクリックします。

新規インストールの場合、Smart View はデフォルトで次の場所にインストールされます:

```
C:\Oracle\SmartView
```

Smart View の既存のインストールをアップグレードする場合、インストーラは、Smart View がインストールされていたフォルダにデフォルト設定されます。

6 インストールが完了したら「OK」をクリックします。

次に Microsoft Excel、PowerPoint または Word を開いたときに Smart View のリボンが表示されます。

EPM System での自動デプロイメントによるインストール

Subtopics

- [サーバーの設定](#)
- [クライアントのインストール](#)

これらの手順は Smart View 11.1.2.x からアップグレードする場合のみに対応します。以前のバージョンの Smart View からアップグレードする場合は、該当リリースのドキュメントに記載されている自動デプロイメントの手順を使用します。

サーバーの設定

▶ Smart View の自動デプロイメントのためにサーバー環境を設定するには:

1 データ・プロバイダの自動デプロイメントを次のように有効にします。

- **Oracle Essbase:** 次の方法から選択します:
 - 管理サービス・コンソール(使用可能な場合)を使用します。
 1. プロバイダ・サーバーに接続し、「編集」、「プロパティ」、「クライアントのデプロイメント」を選択します。
 2. 「Smart View クライアントにアップグレードを強制」または「Smart View クライアントにアップグレードを警告」を選択します。
 3. 「Smart View クライアントをアップグレードに適用」チェック・ボックスを選択します。
 4. 「適用」をクリックします。
 - `essbase.properties` を次のように更新します:
 1. `EPM_ORACLE_INSTANCE\bin\essbase.properties` に移動します。
 2. 次のプロパティを設定します:

```
smartview.webservice.autodeploy.force=true
```

```
smartview.webservice.autodeploy.warn=true
```

- **Oracle Hyperion Planning:**
 1. 「管理」、「プロパティの管理」、「システム・プロパティ」を選択します。
 2. 次のプロパティを設定します:

```
SMART_VIEW_FORCE_INSTALL=true
```

```
SMART_VIEW_DISPLAY_WARNING=true
```

- **Oracle Hyperion Financial Management:** Financial Management の Web Server Configuration Utility for Smart View で、「クライアントにアップグレードを常に強制」を選択します。
 - **Oracle Hyperion Reporting and Analysis:** 自動デプロイメントは自動的に行われます。
- 2 現在の SmartView.exe と version.xml のバックアップ・コピーを作成してから、置き換えるファイルをデプロイします。
 - 3 Smart View の zip ファイルを OTN または MOS からダウンロードします:
 - OTN から:
<http://www.oracle.com/technetwork/middleware/smart-view-for-office/overview/index.html>
 - MOS から:
<https://support.oracle.com/epmos/faces/MosIndex.jspx>
 - 4 ダウンロードしたファイルを一時的な場所に解凍します。
 - 5 SmartView.exe と version.xml を Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspace のインストール場所にコピーします。通常は次の場所です:

C:\Oracle\Middleware\EPMSystem11R1\common\epmstatic\wspace\SmartView

これで、Smart View ユーザーは “[クライアントのインストール](#)” on page 5 に進むことができます。

クライアントのインストール

▶ Smart View クライアントをインストールするには:

- 1 Smart View で「パネル」を選択します。
- 2 次のいずれかの方法でデータ・ソースに接続します:
 - 共有接続を介して
 - 次の URL でプライベート接続を介して:
 - Essbase: <http://<server>:19000/aps/SmartView>
 - Planning: <http://<server>:19000/HyperionPlanning/SmartView>
 - Financial Management: <http://<server>:19000/hfmoofficeprovider/hfmoofficeprovider.aspx>
 - Reporting and Analysis: <http://<server>:19000/raframework/browse/listxml>

Note: Reporting and Analysis リリース 11.1.2.1.000 以前を使用している場合、Smart View の自動デプロイメントは機能しません(10233672、12870087)。

- 3 「使用可能な Smart View クライアントの新規バージョン」が表示されたら、「ここをクリックしてインストールしてください」をクリックします。

- 4 起動された Internet Explorer ブラウザで、「ファイルのダウンロード」で「実行」を選択します。

Note: Firefox がデフォルトのブラウザの場合でも、Internet Explorer が起動します。

- 5 Microsoft Excel のセキュリティ警告が表示されたら、「実行」をクリックします。
- 6 プロンプト表示されたらアップグレードを確認します; 「はい」をクリックします。
- 7 インストール・ウィザードが表示されます; 「OK」をクリックします。
インストーラは、コントロール・パネルにある Windows の「地域と言語」ダイアログ・ボックスの「形式」フィールドに設定されている言語で自動的に表示されます。
- 8 プロンプト表示されたら、開いているすべての Microsoft Office アプリケーションを閉じて、「OK」をクリックします。
- 9 インストール・ウィザードで「OK」をクリックし、プロンプトに従って Smart View をインストールします。
- 10 インストールが完了したら「OK」をクリックします。
次に Microsoft Excel、PowerPoint または Word を開いたときに Smart View のリボンが表示されます。
- 11 Excel を開きます。
- 12 Smart View のリボンで、「ヘルプ」の横の矢印を選択し、「バージョン情報」を選択します。
- 13 新しいバージョンの Smart View を確認します。

EPM Workspace からのインストール

Subtopics

- [ワークスペース設定](#)
- [クライアントのインストール](#)

ワークスペース設定

▶ 更新された Smart View インストーラ用にワークスペース環境を設定するには:

- 1 現在の SmartView.exe と version.xml のバックアップ・コピーを作成してから、置き換えるファイルをデプロイします。
- 2 Smart View の zip ファイルを OTN または MOS からダウンロードします:
 - OTN から:
<http://www.oracle.com/technetwork/middleware/smart-view-for-office/overview/index.html>
 - MOS から:
<https://support.oracle.com/epmos/faces/MosIndex.jspx>

- 3 ダウンロードしたファイルを一時的な場所に解凍します。
- 4 SmartView.exe と version.xml を EPM Workspace のインストール場所にコピーします。通常は次の場所です:

```
C:\Oracle\Middleware\EPMSysstem11R1\common\epmstatic\wspace\SmartView
```

クライアントのインストール

- ▶ EPM Workspace から Smart View をインストールするには:
 - 1 EPM Workspace で、「ツール」、「インストール」、「Smart View」を選択します。
 - 2 「ファイルのダウンロード」で「実行」を選択します。
 - 3 Microsoft Excel のセキュリティ警告が表示されたら、「実行」をクリックします。
 - 4 Smart View の宛先フォルダを選択し、「OK」をクリックします。

新規インストールの場合、Smart View はデフォルトで次の場所にインストールされます:

```
C:\Oracle\SmartView
```

Smart View の既存のインストールをアップグレードする場合、インストーラは、Smart View がインストールされていたフォルダにデフォルト設定されます。

- 5 インストールが完了したら「OK」をクリックします。

次に Microsoft Excel、PowerPoint または Word を開いたときに Smart View のリボンが表示されます。

Oracle BI EE からのインストール

Subtopics

- [Oracle BI EE Analytics ホームページの構成](#)
- [Oracle BI EE Analytics ホームページからのインストール](#)

Oracle BI EE Analytics ホームページの構成

Note: Smart View インストーラのカスタム・ダウンロード・リンクの構成は、Oracle BI EE 11.1.1.7.1 以降のバージョンに適用され、それより前のバージョンでは使用できないことがあります。

Oracle Business Intelligence Enterprise Edition に同梱されている Smart View のバージョンは、Oracle Business Intelligence サーバーまたは Smart View の使用可能な最新バージョンと同期していない場合があります。

Smart View インストーラのカスタム・ダウンロード・リンクを指すよう「BI デスクトップ・ツールのダウンロード」ドロップダウン・リストの「Smart View for MS Office」リンクを構成できます。環境に適したバージョンの Smart View をユーザーが常に使用できるようにできます。これは、SmartViewInstallerURL 要素を instanceconfig.xml に追加して行います。

次のような smartview.exe が含まれている場所を指すようダウンロード・リンクを構成できます:

- 最新バージョンの Smart View が常に入手できる Oracle Technology の Smart View のダウンロード・ページなどの外部 URL
- インストールをすぐに開始できる内部 Web ページまたはイントラネット・サイトなどの内部 URL
- インストールをすぐに開始できるローカル・サーバー上のフォルダ

▶ Smart View インストーラのカスタム・ダウンロード・リンクを構成するには:

1 編集のために instanceconfig.xml ファイルを開きます。

Oracle Fusion Middleware Oracle Business Intelligence Enterprise Edition システム管理者ガイドの構成ファイルの場所に関する項を参照してください。

2 CatalogPath および<DSN>AnalyticsWeb</DSN>セクションを見つけ、これらのセクションの後に SmartViewInstallerURL 要素を追加します。

3 次の例の構文を使用して、SmartViewInstallerURL 要素を追加します。

Oracle Technology Network からのダウンロードの例:

```
<CatalogPath>/example/path/work/abc/instances/instance1/bifoundation/  
OracleBIPresentationServicesComponent/coreapplication_obips1/catalog/SampleApp</  
CatalogPath>  
<DSN>AnalyticsWeb</DSN>  
<SmartViewInstallerURL>http://www.oracle.com/technetwork/middleware/epm/  
downloads/smart-view-1112x-1939038.html</SmartViewInstallerURL>
```

イントラネット・サイトからのダウンロードの例:

```
<CatalogPath>/example/path/work/abc/instances/instance1/bifoundation/  
OracleBIPresentationServicesComponent/coreapplication_obips1/catalog/SampleApp</  
CatalogPath>  
<DSN>AnalyticsWeb</DSN> <SmartViewInstallerURL>http://myserver:8080/downloads/  
smartview.exe</SmartViewInstallerURL>
```

内部サーバーからのダウンロードの例:

```
<CatalogPath>/example/path/work/abc/instances/instance1/bifoundation/  
OracleBIPresentationServicesComponent/coreapplication_obips1/catalog/SampleApp</  
CatalogPath>  
<DSN>AnalyticsWeb</DSN> <SmartViewInstallerURL>\\myserver\downloads  
\smartview.exe</SmartViewInstallerURL>
```

- 4 変更内容を保存し、ファイルを閉じます。
- 5 Oracle BI EE インスタンスを再起動します。

Oracle BI EE Analytics ホームページからのインストール

▶ Smart View を Oracle BI EE ホームからインストールするには:

- 1 Oracle BI EE Analytics ホームページで「BI デスクトップ・ツールのダウンロード」の横にある矢印をクリックし、「Smart View for MS Office」を選択します。
- 2 次のいずれかのオプションを選択します:
 - 「実行」をクリックしてインストーラを直接実行します。
「ユーザー・アカウント制御」ダイアログ・ボックスが表示されたら、「はい」をクリックして、[step 3](#)に進みます。
 - 「保存」をクリックして、アクセスでき、実行可能ファイルを実行できるディレクトリに Smart View インストーラ・ファイルを保存します。
Smart View 実行可能ファイルを保存したフォルダを開き、ダブルクリックして実行します。[step 3](#)に進みます。
- 3 インストール・ウィザードで使用する言語を選択します。
- 4 「次」をクリックします。
- 5 ウィザードで指示される手順に従って操作します。
- 6 インストールが完了したら「終了」をクリックします。

次に Microsoft Excel、PowerPoint または Word を開いたときに Smart View のリボンが表示されます。

ローカルまたは Web サーバーにインストールするヘルプのダウンロード

Smart View のインストール後、Oracle.com Web サイトでホストされている URL からオンライン・ヘルプが取得されます。これは Smart View のデフォルト動作であり、ヘルプを起動するのにユーザーが変更を加える必要はありません。

ただし、ヘルプをローカルで、または組織の Web サーバーでインストールする必要があることがあります。Oracle.com 以外の場所からヘルプにアクセスする必要がある例をいくつか示します。

- アクセシビリティ第 508 条のために、ヘルプ・ファイルを個人のコンピュータのローカル・ドライブにインストールする必要がある場合。
- インターネットのアクセス制限。たとえば、ユーザーが組織のイントラネットの URL にしかアクセスできない場合。

このようなケースに対応するために、ヘルプの zip ファイルがリリース 11.1.2.5.200 のパッチとして My Oracle Support に用意されており、ダウンロードすることができます。

次の手順で、ヘルプの zip ファイルをダウンロードする方法を説明します。インストールおよび構成の詳細な手順は、次のガイドにあります:

- Oracle Smart View for Office Accessibility Guide。ローカルでのヘルプのインストールと構成に関する項を参照してください。
- Oracle Smart View for Office User's Guide、付録 B。ローカルまたは Web サーバーでのヘルプのインストールと構成に関する項を参照してください。

▶ Smart View のヘルプ zip ファイルを My Oracle Support (MOS)からダウンロードするには:

- 1 MOS にログインします。
- 2 「パッチと更新版」 タブを選択します。
「パッチ検索」領域が画面の右側に表示され、デフォルトで「検索」タブが選択されています。
- 3 「番号/名前またはバグ番号(簡易)」見出しの下で、ドロップダウン・リスト・ボックスの「パッチ名または番号」が選択されていることを確認します。
- 4 「パッチ検索」テキスト・ボックスに次の Smart View パッチ番号を入力します:

18090340

「パッチ検索」テキスト・ボックスは、「パッチ名または番号」ドロップダウン・リスト・ボックスの右側にあります。

- 5 「検索」をクリックします。
- 6 パッチ zip ファイルを一時ディレクトリにダウンロードします。
- 7 要件に応じてヘルプをインストールおよび構成するには、次のいずれかのガイドの指示に従います:
 - Oracle Smart View for Office Accessibility Guide。ローカルでのヘルプのインストールと構成に関する項を参照してください。
 - Oracle Smart View for Office User's Guide、付録 B。ローカルまたは Web サーバーでのヘルプのインストールと構成に関する項を参照してください。

64 ビット Microsoft Office のインストールに関する情報

64 ビット Office を使用する場合、次のことに留意してください:

- リリース 11.1.2.5 以上では、64 ビットと 32 ビット両方の Office システム用に SmartView.exe という 1 つの Smart View インストール・ファイルが提供されています。
- 64 ビット・バージョンの Smart View という場合、64 ビットが示すのは Microsoft Office のみであり、オペレーティング・システムのバージョンは示していない点に注意してください。
- 64 ビットのオペレーティング・システムでは Planning オフラインがサポートされますが、64 ビットの Smart View インストールではサポートされません。Planning Offline を Smart View と組み合わせて使用する場合、32 ビット・バージョンの Microsoft Office を使用する必要があります。

- 14342207 -- Smart View の関数移行ユーティリティは 64 ビット Office ではサポートされていません。これは Microsoft の問題であり、サービス・リクエストが Microsoft に報告されています。

回避策: Microsoft によって修正されるまで、32 ビット・バージョンの Office を使用します。

- 14770595 -- 以前のリリースでは、Oracle Business Intelligence ホームページから、64 ビット・バージョンの Smart View をインストールできませんでした。

11.1.2.5 以降、Smart View の実行可能ファイル SmartView.exe は、32 ビットと 64 ビット両方のバージョンの Office に対してインストールする際に使用できます。ユーザーへの配付用の SmartView.exe を Oracle Technology Network または My Oracle Support からダウンロードするか、“[Oracle BI EE からのインストール](#)” on page 7 で他のインストール・オプションを参照してください。

- 16872045 -- リリース 11.1.2.5 以降、32 ビット・バージョンと 64 ビット・バージョンの Smart View を 1 つのインストーラから使用できるようになりました。ユーザーが EPM Workspace からインストールする場合に、SmartView.exe を検索するようにリリース 11.1.2.3.x 以前の自動デプロイ機能を設定すると、必要なバージョン(32 ビット・バージョンまたは 64 ビット・バージョン)が自動的に検出されてインストールされます。

ユーザーが Oracle Technology Network または My Oracle Support からインストーラにアクセスする場合は、同じ 1 つのインストーラと検出機能を使用できません。

サポートされているプラットフォーム

Subtopics

- [他の Microsoft プラットフォームのサポート](#)
- [Microsoft Office のサポート](#)
- [Microsoft .NET Framework のサポート](#)
- [Smart View の拡張機能のサポート](#)
- [Oracle BI EE のバージョンのサポート](#)
- [ブラウザのサポート](#)

EPM System 製品のシステム要件およびサポートされているプラットフォームに関する情報は、Oracle Enterprise Performance Management System Certification Matrix にスプレッドシート形式で提供されます。このマトリックスは、Oracle Technology Network (OTN)の「Oracle Fusion Middleware Supported System Configurations」ページに掲載されています:

<http://www.oracle.com/technetwork/middleware/ias/downloads/fusion-certification-100350.html>

Note: この Readme に特に記載のないかぎり、Smart View 11.1.2.5.200 でのプラットフォーム・サポートは、11.1.2.3.500 バージョンの Oracle Enterprise Performance Management System Certification Matrix の内容に従います。

他の Microsoft プラットフォームのサポート

このリリースでは、次のものがサポートされます:

- Microsoft Windows 8
- Microsoft Office 2013 (32 ビットおよび 64 ビット)
- Microsoft Surface Pro タブレット

Microsoft Office のサポート

Smart View は、Microsoft Office 2007 バージョン以上(該当する場合は 32 ビットと 64 ビットの Office を含む)をサポートしています。

Microsoft .NET Framework のサポート

Smart View の 11.1.2.5.200 バージョンを使用するには Microsoft .NET Framework 4.5 以上が必要です。

Smart View の拡張機能のサポート

16492773 -- Smart View の拡張機能を扱う場合は、バージョン 11.1.2.3.500 以上の拡張機能を使用する必要があります。たとえば、Oracle Hyperion Strategic Finance 拡張機能を Smart View 11.1.2.5.200 で使用する場合は、11.1.2.3.500 以上のバージョンの拡張機能にアップグレードする必要があります。Smart View 11.1.2.5.200 は、11.1.2.3.500 より古いバージョンの拡張機能と互換性がありません。

Oracle BI EE のバージョンのサポート

Smart View で Oracle BI EE 関連の機能を使用するには、Oracle BI EE リリース 11.1.1.7 または 11.1.1.7.1 が必要です。

また、リリース 11.1.2.5.200 で新しい Oracle BI EE の機能を使用するには、新しい機能をサポートする Oracle BI EE 11.1.1.7.1 パッチが必要です。

ブラウザのサポート

Smart View はブラウザのバージョンに依存しませんが、Smart View が連携する製品は依存する場合があります。Oracle Enterprise Performance Management System Certification Matrix および製品の Readme でその他のブラウザ・サポート要件を確認してください。

サポートされている言語

EPM System 製品のサポートされている言語に関する情報は、Oracle Enterprise Performance Management System Certification Matrix の「Translation Support」タブで

スプレッドシート形式で提供されています。このマトリックスは、OTN の「Oracle Fusion Middleware Supported System Configurations」 ページに掲載されています:

<http://www.oracle.com/technetwork/middleware/ias/downloads/fusion-certification-100350.html>

Note: この Readme に特に記載のないかぎり、Smart View 11.1.2.5.200 での言語サポートは、11.1.2.3.500 バージョンの Oracle Enterprise Performance Management System Certification Matrix の内容に従います。

サポートされているこのリリースへのパス

Smart View は、次のリリースからリリース 11.1.2.5.200 にアップグレードできます:

Table 1 サポートされているこのリリースへのパス

アップグレード・パスのリリース: 元	先
11.1.2.x	11.1.2.5.200
11.1.1.4.x	11.1.2.5.200

Note: 11.1.1.3.X 以前のリリースからアップグレードする場合は、リリース 11.1.2.5.200 をインストールする前に Smart View をアンインストールすることをお勧めします。

このリリースで修正された問題

Subtopics

- [インストール](#)
- [全般](#)
- [Essbase](#)
- [Financial Management](#)
- [Financial Reporting](#)
- [Oracle BI EE](#)
- [Planning](#)

この項では、リリース 11.1.2.5.200 で修正された不具合を示し、次の項では、リリース 11.1.2.5.000 で修正された不具合を示します。以前のリリースで修正された問題のリストを確認するには、Defects Fixed Finder を使用します。このツールでは、所有する製品および現在の実装のリリースを確認できます。このツールでは、1 回クリックするだけで、修正された問題の説明や関連するプラットフォームとパッチ番号を必要に応じて組み合わせたレポートが生成されます。このツールはこちらにあります:

<https://support.oracle.com/oip/faces/secure/km/DocumentDisplay.jspx?id=1292603.1>

インストール

- 17635429 -- インストール場所のパスに空白が含まれている場合、サイレント・インストールが機能しませんでした。

サイレント・インストールでは、インストール場所のパスに空白が含まれる場合、次のように引用符を使用してください:

```
SmartView.exe /s /v"/qn INSTALLDIR="C:\Program Files\Hyperion\SmartView\""
```

- 17662148 -- 64 ビットのオペレーティング・システムでは、管理者以外のユーザーは Smart View のサイレント・インストールを正常に完了しませんでした。

このリリースでは、管理者以外のユーザーは、次のコマンドを使用してサイレント・インストールを正常に実行できます:

```
SmartView.exe /s /v" /L*v C:\install.log"
```

- 17804274 -- Smart View のインストーラで、Office 64 ビットに 32 ビット・クライアントがインストールされます。

全般

- 16097806 -- 上位レベルの期間に入力したデータが Smart View で分散されません。
- 16616324 -- 小数点を使用して指定したフォント・サイズ(11.5 など)の場合、リフレッシュ時にワークシート内のフォント・サイズが 2 ポイントに縮小されます。
- 17288684 -- Windows 8 で、Smart View が有効になっている場合、Microsoft Outlook 2013 64 ビットが異常終了することがあります。
- 17318905 -- オプションの設定に加えられた変更は既存および新規シートに対してグローバルに保持されません。
- 17436898 -- Excel の起動時、UTSymbol.xml ファイルがないというクリティカルでないエラーがログに記録されます。
- 17449535 -- タスク・リストからフォーカスを移動すると、「タスク・リスト」ペインのラベル・テキストが白くなり、読み取れません。
- 17478306 -- リフレッシュ時、「進捗情報を表示するまでの時間」(「オプション」ダイアログ・ボックスの「詳細」タブ)で秒数が指定されている場合でも、操作がほぼ完了するまで進行状況バーが表示されません。
- 17584823 -- Office 2013 で Smart View 以外に有効なアドインがある場合、起動時に Excel がフリーズします。
- 17594115 -- Excel 2013 で、Smart View の 65,536 行を超える行をリフレッシュすると、Excel の最大行と列のエラーになります。
- 17642750 -- Excel 2013 で、非常に大きいワークブックを開く際、Smart View のパフォーマンスが非常に悪くなります。

パフォーマンスを向上させるため、このリリースでは、「メタデータ・ストリージの向上」オプションがデフォルトで選択されています。

- バグ 17655563 -- Smart View がインストールされている場合、Word を終了する際、「このファイルはすでに使用中のため保存できません(Normal.dotm)」というエラーが表示されます。
- 17665864、17695508 -- 大きなアド・ホック・グリッドの操作時、Excel のメモリー使用量が増え続け、その結果、Excel が予期せず終了します。
このリリースでは、機能が拡張され、アド・ホック操作時のメモリー消費が改善されました。
- 17783328 -- フランス語で関数ビルダーは機能しません。
- 17830360 -- HypGetSheetOption および HypGetGlobalOption 関数によって返されるテキスト値が変数に格納される場合、テキスト値が変わります。変数には、正しい値が含まれます。しかし、テキスト値は、変数内で変更を続けます。これは、Excel の標準関数のテキスト値または直接テキスト値が変数に格納される場合には起こりません。
- 17938623 -- Smart View の言語オプションがオランダ語に設定されている場合、Smart View の関数ビルダーでセル参照を選択できません。

Essbase

- 14785472 -- 「メンバー名と別名」または「メンバー名のみ」が選択されている場合、「メンバー」オプションの「アドホック操作の式とコメントを保存(ピボットを除く)」と「拡張コメント処理を使用可能にする」が有効になっていても、アド・ホックの実行中に Smart View をリフレッシュするとコメント・テキストが除去されることがあります。
この修正には、Essbase 11.1.2.3.500 以上が必要です。
- 14802498 -- 「データなし/欠落」抑制オプションが選択されている場合、空白行が抑制されるはずであっても表示され、それらの行のセルにフォーマットが適用されます。
この修正には、Essbase 11.1.2.3.500 以上が必要です。
- 16808119 -- アド・ホック操作の実行中で、かつメンバー(繰返しかどうかにかかわらず)がすでにグリッドに存在する場合、「行の抑制」の「繰返しメンバー」オプションは、有効にしても効力がありません。
この修正には、Essbase 11.1.2.3.500 以上が必要です。
- 17001455 -- 「行の抑制」オプションの「繰返しメンバー」が選択されている場合でも、繰返し行が表示されます。
この修正には、Essbase 11.1.2.3.500 以上が必要です。
- 17389036 -- 複数のメンバーを含む POV ディメンションを使用してクエリー・デザイナーで作成された既存のレポートでリフレッシュを行うと、POV がディメンションの 1 番目のメンバーにリセットされます。
- 17610172 -- 複数のシートに Essbase の内容を含むワークブックで、「すべてのワークシートのリフレッシュ」をクリックすると、キーボードがフリーズし

ます。[Esc]キーを押しても効果がなく、矢印キーを使用すると、POVが表示されます。

- 17854600 -- ユーザーは Essbase に接続した後、セル・コメントを含むセルのサイズを変更できません。

Financial Management

- 16084841 -- Financial Management アプリケーションで定義された小数点の位置の設定は、Smart View でアプリケーションにフォームをインポートしたり、アド・ホックを実行すると、失われます。
- 17337698 -- アド・ホックの実行時、「Excel フォーマットの使用」オプション(「オプション」ダイアログ・ボックスの「フォーマット」・タブ)が選択されている場合、インデントが機能しません。
- 17834004 -- 大きなワークシートでは、バージョン 11.1.2.1 の Smart View と比較してパフォーマンスが劣っていました。
- 17872385 -- 関数ビルダーの式を使用したワークシートで、すでにフィルタされているディメンションにフィルタを使用すると、Smart View が応答しなくなり、エラーは記録されません。

Financial Reporting

- 14798798 -- Oracle Hyperion Financial Reporting に接続し、インポートされたレポートまたは保存された Excel スプレッドシート(XLS または XLSM)を開くと、レポート・ヘッダーのロゴまたは他のイメージが表示されません。
- 17355918 -- 「リフレッシュ」オプションを選択して PowerPoint の現在のスライドをリフレッシュすると、プレゼンテーションのすべてのスライドがリフレッシュされます。

Oracle BI EE

- 14342299、14507281 -- 複数の Oracle BI EE 接続が同時に開いているとき、エラーが発生することがあります。
このリリースでは、Smart View で、1つのシートでの複数の Oracle BI EE 接続がサポートされます。
- 14689283 -- ビュー・デザイナーでは、エッジ内でメンバー・リストの一番上に階層メンバーが配置されたビューを作成できません。たとえば、Sample Sales アプリケーションを使用するとき、Row エッジに Time Hierarchy を配置し、その下に D3 Organization メンバーを配置することはできません。
- 16026143 -- Smart View の Oracle BI EE カタログでは、分析に含まれるビューに階層列がある場合、分析のビューが表示されないことがあります。
- 16218211 -- Oracle BI EE サーバーの接続がタイムアウトになった後でアクションを実行しようとする時、「AMF バージョンがサポートされません」というメッセージが表示されます。

- 1802826 -- Office 2010 で Planning 接続を使用して Word または PowerPoint にアド・ホック・グリッドをコピーして貼り付けると、データが 0 として返され、Planning プロバイダ・エラーがスローされます。Essbase 接続を使用する場合、エラーは発生しますが、データは正しく貼り付けられます。

Planning

- 17338924 -- Planning のフォームが Excel でローカルに保存される場合、Business Rules の実行時プロンプトは保存されません。
- 17649057 -- ユーザーは、Planning のアド・ホック・シート内のメンバーに変更を加えることはできません。
- バグ 17685100 -- "date"データ型の日付メンバーに対してアド・ホック分析を実行する際、エラーが発生します。
- 17908175 -- アド・ホック・プランニング・グリッドでフリーフォームの操作を実行する場合、入力された名前がマルチバイトであると、リフレッシュ時に無効な double 値というメッセージが表示されます。
- 17973341 -- Smart View でデータをリフレッシュすると、棒グラフの軸ラベルに下線が付きます。

リリース 11.1.2.5.000 で修正された問題

Subtopics

- [全般](#)
- [Essbase](#)
- [Financial Management](#)
- [Financial Reporting](#)
- [Oracle BI EE](#)
- [Planning](#)
- [Reporting and Analysis](#)

この項では、リリース 11.1.2.5.000 で修正された問題について説明します。

全般

- 12645722 -- 式をコピーして貼り付けることができません。

Note: リリース 11.1.2.5 以降では、式のセルをコピーして貼り付けることができます。

- 13530466 -- 64 ビット・バージョンの Smart View は EPM Workspace からインストールできません。

Note: このリリースでは、Smart View インストーラは SmartView.exe という 1 つの実行可能ファイルで、使用している Office のビット・バージョン(32 ビットまたは 64 ビット)を自動的に検出します。詳細は、“[インストール情報](#)” on page 2 を参照してください。

- 13606492 -- 64 ビット・バージョンの Excel 2010 SP1 で、Smart View 関数が存在する場合や関数ビルダーを使用した場合に、Excel が異常終了することや、Smart View の「コピー」および「貼付け」機能が動作しないことがあります。これは Microsoft の問題であり、サービス・リクエストが Microsoft に報告されています。
- 14402151 -- Smart View がインストールされると、大きいワークブックを開くためにかかる時間が非常に長くなることがあります。

Note: パフォーマンスを向上させるため、Smart View 11.1.2.5 では、「向上したメタデータ・ストレージ」オプションがデフォルトで選択されます。

- 15950036 -- 64 ビット Office の Word 2010 で、タイトル・ビューとチャート・ビューのみを含む複合ビューを挿入するときにオブジェクト参照エラーが発生します。
- 15993607 -- シングル・サインオン環境でユーザー資格証明を指定した後、次のエラー・メッセージが少しの間表示されます。

```
Server Error - 405 - HTTP verb used to access this page is not allowed
The page you are looking for cannot be displayed because an invalid method
(HTTP verb) was used to attempt access
```

その後、ユーザーは正常に Smart View にサイン・インできます。

- 16180415-- Oracle Fusion General Ledger アプリケーションにログインしていないと、このアプリケーションへのドリルスルーが失敗します。Smart View でドリルスルー操作を実行する前にアプリケーションにログインしてください。
- 16361978 -- Word でスライダを含むレポートを保存して再オープンした後、スライダが小さく表示されます。

Note: スライダを初めてレポートに挿入してリフレッシュしたときに、スライダがグレー表示されることがあります。これを修正するには、「ドキュメント・コンテンツ」パネルに移動して「コンテンツのリフレッシュ」ドロップダウン矢印をクリックし、「デザイン・モードの切替え」を選択してスライダを調整します。元の画面に戻り、「デザイン・モードの切替え」を再度選択してから「リフレッシュ」を選択すると、スライダが正しく表示されます。

- 16520945 -- 「UI の色」機能(リリース 11.1.2 で廃止)により、Smart View を 11.1.2 より前のリリースからアップグレードした場合に Smart View パネルで問題が発生します。
- 16528948 -- Excel のスマート・クエリー・シートで、スマート・クエリー・パネルの「視点」の下に属性メンバーが表示されません。
- 16887171 -- データ・ソースへの接続時に自動リフレッシュを実行すると、既存のワークシート・データが失われました。

Tip: 「ドキュメント・コンテンツ」 ペインで、「接続の変更」 コマンドを使用して、個々のワークシートまたはワークブック全体に対する接続を変更します。この機能については、Oracle Smart View for Office User's Guide の接続の変更に関する項に説明があります。

- 16903009 -- ワークシートをコピーする際にシート・オプションがコピーされません。
- 16998632 -- ワークブックを保存するときに、Excel が異常終了することがあります;ただし、保存の前にリフレッシュを実行すると、ワークブックは正しく保存されます。
- 17075458 -- パスワードで保護されたアドインを使用する際、既存の Smart View を終了するとログイン・ダイアログ・ボックスが表示されます。

Note: 注意: この修正が適用されるのは、Oracle BIEE およびスマート・クエリー拡張機能です。その他の拡張機能については、各拡張機能のドキュメントを確認してください。

- 17237674 -- Smart View パネルから「メンバー選択」を起動すると、Essbase のリボンが表示されなくなります。

Essbase

- 16509704 -- 新しいワークブックを開いて Essbase に接続し、「アド・ホック分析」ではなく「このワークシートのアクティブ接続の設定」 オプションを選択した場合、ワークシート内でダブルクリックすると、古いグリッド・フォーマットがデフォルトで開きます。その後、「アド・ホック分析」を選択し、再利用オプションを選択してから更新すると、共通プロバイダ・セッションが一致しないというエラーが発生します。
- 16597283 -- POV が 1 つ含まれていた移行済のシートを再度開くと、POV の数が超過しているというエラーが表示されます。
- 16765987 -- HsGetSheetInfo("Alias Table")から、現在のシートで使用されている別名表が返されません。
- 16770102 -- 取得領域が 1 つしかない複数グリッドのワークシートにおいて、Essbase のリボンで「別名の変更」を選択すると、Excel が異常終了していました。
- 16778720 -- 関数(HsGetValue と HsSetValue)を含むワークシート上でアクティブな接続を有効にした後、そのシートで「データの送信」が機能しません。

Financial Management

- 15959754 -- Smart View で Financial Management Web フォームを開くと、「XML のロード・エラー: 名前に無効な文字が含まれていました」というエラーが表示されます。しかし、同じ Web フォームが Financial Management では正しく開きます。
- 16868873 -- 中かっこ({})などの一部の一般的な算術記号が関数ビルダーで認識されません。

- 16980508 -- Smart View の「列の抑制」オプションがすべて選択された状態で Financial Management フォームを開くと、POV ツールバーが表示されません。
この問題は、Financial Management 11.1.2.2.305 で修正されています。この修正を Smart View 11.1.2.5 で確認するには、Financial Management 11.1.2.2.305 に接続する必要があります。
- 16985544 -- POV 詳細がリンク・フォームに正しく渡されません。

Financial Reporting

- 16199752 -- Financial Management プロバイダに接続したとき、「操作時にフォーマットを移動」オプション(「オプション」ダイアログ・ボックス、「フォーマット」タブ)が有効になっていると、「選択項目のみ保持」や「選択項目のみ除去」などの操作が失敗します。
- 16775130 -- PowerPoint にインポートして保存した Financial Reporting レポートを使用する際に、レポートのリフレッシュや編集ができません。

Oracle BI EE

- 14685678 -- 列に対してダブル列のプロンプトが定義されているときに、ユーザーがプロンプトを編集しようとする、エラーが発生することがあります。ダブル列(Oracle BI EE で構成可能)では、列データは、コード列がマップされている表示列を含みます。
- 14690536 -- ビュー・デザイナーで、インタフェース要素のタブ順序が正しくありません。またチェック・ボックスにフォーカスがありません。
- 14781105 -- Word でチャートに対して「データのマスク」機能を使用すると、そのチャートは完全に除去されます。
- 16922669 -- メンバー名に先行ゼロが含まれている場合(SKU 番号 000456 など)、Smart View では先行ゼロが切り捨てられ、値はテキストではなく数値として扱われます。先行ゼロと 1 つ以上の文字を含むメンバー名はテキストとして正しく処理されます(SKU 番号 000456A など)。
- 16299637 -- Office アプリケーション間で(たとえば Word から PowerPoint に)チャートをコピーして貼り付けると、Excel が開き、デフォルトのデータ・シート(要求の処理時に Excel で使用されるシート)が表示されたままになります。
また、Excel がすでに開いている場合に、Word または PowerPoint でチャートに対してマスク操作またはリフレッシュ操作を実行すると、デフォルトのデータ・シートが Excel で表示されたままになります。
- 16767134、16937009 -- 特定の時間メンバーが行に存在する場合、Smart View では、Excel のピボット・テーブルを複合ビューまたはピボット・テーブル・ビューとして Excel に挿入できませんでした。
- 16616561 -- 表ビューおよびピボット・テーブル・ビューを挿入したとき、セクションだけでなくドリルダウンされた行エッジ上の階層列もそのビューに含まれる場合、エラーが発生します。

Note: この問題は、Oracle BI EE バージョン 11.1.1.7.1 で修正されています。

- 16974502 -- Smart View では、Oracle Business Intelligence Answers から一部の大規模なレポートをインポートできません。

Note: この問題は、Oracle BI EE パッチ 16572688 (不具合 16832299)で修正されています。

- 17021872 -- Smart View で定義されたフィルタを使用してデータをロードすると、データの最初の 150 行が削除されます。

Planning

- 14367639 -- Planning アプリケーションの Web フォームで更新されたスマート・リスト値は、Smart View で保存された Planning データ・フォームを開いて、更新された Planning アプリケーションに接続しても反映されません。
- 15919182、16292632 -- Smart View の Planning データ・フォームで POV を変更すると(セル・ドロップダウンを使用して POV を別のメンバーに変更すると)、現在の POV に入力するデータが、以前に選択した POV メンバーに送信されず。POV が違うという警告メッセージも生成されません。
- 16615404 -- Windows の地域の設定で小数点の記号としてカンマ(,)が選択されている場合、Planning フォームでデータを調整すると小数部分が切り捨てられます。たとえば、選択したセルに 10,50 を追加する場合、10 のみが追加されます。
- 16914058 -- 代替変数またはユーザー変数が実行時プロンプトの最初のメンバーとして選択され、実行時プロンプトの値にメンバー名と代替変数が混在している場合、二重引用符が正しく追加されず、ルールの起動に失敗します。

Reporting and Analysis

- 16412491 -- Financial Reporting レポートを EPM Workspace から「問合せ準備モードでエクスポート」モードを使用してエクスポートすると、Smart View で自動的に「繰返しメンバー」オプションが選択され、繰り返されている列見出しが自動的に抑制されます。レポートをインポートする前に「繰返しメンバー」オプションが選択されていなくても、このようになります。
- 16412491 -- Financial Reporting レポートを EPM Workspace から「問合せ準備モードでエクスポート」モードを使用してエクスポートすると、Smart View で自動的に「繰返しメンバー」オプションが選択され、繰り返されている列見出しが自動的に抑制されます。レポートをインポートする前に「繰返しメンバー」オプションが選択されていなくても、このようになります。

既知の問題

Subtopics

- [インストール](#)
- [全般](#)
- [Disclosure Management](#)
- [Essbase](#)
- [Financial Management](#)
- [Financial Reporting](#)
- [Oracle BI EE](#)
- [Planning](#)
- [Reporting and Analysis](#)
- [Strategic Finance](#)

このリリースで注意が必要な既知の問題は次のとおりです。

インストール

- 9798801、8839088、7634745 -- このバージョンの Smart View をアンインストールしてから前のバージョンの Smart View をインストールしないでください。このようにする必要がある場合は、レジストリ・キー `HKEY_CURRENT_USER\Software\Microsoft\Office\Outlook\Addins\Hyperion.CommonAddin` を削除してください。
- 14233719 -- Smart View PSE からこのリリースにアップグレードしている場合、まず PSE リリースをアンインストールしてからこのリリースをインストールすることをお勧めします。
- 14648478 -- Smart View インストーラでは、双方向(BiDi)言語が完全にはサポートされていません。このために、テキストやアイコンの重なりや配置が正しくないといったフォーマット・エラーがインストーラの画面で発生することがあります。ただし、インストーラを使用することはできます。インストールされた Smart View 製品では BiDi 言語が正しく表示されます。
- 18038604 -- 「更新のチェック」リンク(Smart View の「オプション」ダイアログ・ボックスの「拡張機能」ページ)を使用して拡張機能をインストールする際、実行されている Office アプリケーションは Excel のみであるようにします。他のすべての Office アプリケーション(Word、PowerPoint および Outlook)が閉じていることを確認します。Excel 以外の Office アプリケーションが実行されている場合、拡張機能はインストールされず、問題を説明したエラー・メッセージは表示されません。

拡張機能のインストールが完了したら、プロンプトに従って Excel を再起動します。

全般

- 7432260 -- 表レポートの列をサイズ変更できません。
回避策: これは通常の動作です。列のサイズ変更を使用可能にするには、次のように操作します:

1. グリッドに表を挿入してリフレッシュします。
 2. Excel のデザイン・モードに切り替えます(Excel の「開発」リボンまたは Visual Basic ツールバーから)。
 3. 表を右クリックして、「Microsoft Office Spreadsheet 11.0 Object」、「Command and Options」を選択します。
 4. 「Properties」ダイアログ・ボックスの「Protection」タブを選択し、「Resize Columns」を選択します。
 5. 「Sheet」タブを選択し、「Column Header」を選択します。
 6. 「OK」をクリックします。
- 9083246 -- Excel を閉じようとする時、異常終了する可能性があります。これは Microsoft の問題です。Excel を閉じる前に作業を保存するようにしてください。
 - 9315130 -- Office 2007 用の Microsoft セキュリティ更新プログラム KB969604 を使用すると、Word 内の Smart View 機能が破損します。この問題の修正方法の詳細は、Microsoft のドキュメントを参照してください。
 - 9691355 -- レポート・オブジェクトを含むワークシートをレポート・デザイナーから削除すると、Excel が異常終了することがあります。これは Microsoft の問題です。
 - 11659670 -- Smart View のアラビア語およびヘブライ語バージョンのインターフェースには、レイアウト、配置およびその他の表示の問題があります。
 - 11934177、12569072、18057207 -- Microsoft の制限により、Excel のオプション「Lotus 1-2-3 形式のキー操作」が有効な場合、Smart View と Excel の両方の機能で Smart View が依存する Microsoft API の多くが機能しません。例:
 - Excel で、コピー/貼付け、マクロ、オートメーション API コールが正しく機能しません。
 - Planning 管理拡張機能で、Smart View ディメンション・エディタのメンバー式のフォーマットが正しく表示されません。Planning に送信される際、式に正しくない構文が含まれます。

最高のパフォーマンスを得るには、Smart View に次のものが重要です:

- Excel のオプション「Lotus 1-2-3 形式のキー操作」を選択解除する必要があります。
- Smart View オプションの「メタデータ・ストレージの向上」が有効である必要があります(デフォルトでは、このオプションは有効です)。
- 13987451 -- 大きいワークブックの場合、「リソースが十分ではありません」というエラーが発生する可能性があります。

回避策: ワークブックを分割して小さいワークブックにしてください。

- 14494179 -- ズーム・インを実行した後にズーム・アウトすると、ワークシートに空白行が表示されることがあります。

回避策: これは Smart View 固有の問題ではありません。余分なフォーマット設定が Excel で除去されないことに関係している可能性があります。次に示す Microsoft の回避策を試してみてください:

- Excel で最後のセルをリセットする方法
- [Microsoft Excel Excess Formatting Cleaner Add-in](#) のダウンロードと使用
- 14506528 -- Oracle Smart View for Office User's Guide の XML ファイルからの共有接続へのアクセスに関する項で説明するように、共有接続のために XML ファイルを使用している場合、XML ファイルでは ASCII 文字のみサポートされることに注意してください。このファイルに作成するエントリでは、ASCII 以外の文字を使用しないでください。
- 14456134 -- Excel のオプション「Dynamic Data Exchange (DDE)を使用する他のアプリケーションを無視する」が選択されると、様々な問題が発生することがあります。たとえば、問題が発生するのは、Excel を起動するとき、Excel 外部から Excel ファイルを起動するとき、また Firefox 17.x で「問合せ準備モードでエクスポート」オプションを使用して Financial Reporting から残高をエクスポートするときです。

回避策: 「Microsoft Office」ボタン(Excel の左上)をクリックし、「Excel のオプション」をクリックします。「詳細設定」カテゴリで「全般」オプションまでスクロール・ダウンし、「Dynamic Data Exchange (DDE)を使用する他のアプリケーションを無視する」チェック・ボックスを選択解除します。Excel を再起動します。

- 16554169 -- Smart View がインストールされているコンピュータで、Excel から PowerPoint にコピーしたリンクを PowerPoint で更新すると、エラーが発生します。
- 16835531 -- Smart View は、スマート・スライスからインポートされた関数グリッドの数値のフォーマットをサポートしていません。
- 17081231 -- この問題は Windows 8 の Office 2013 64 ビット・プラットフォームで発生します: Smart View のリボンで「パネル」ボタンをクリックすると、Excel が終了します。

回避策: 「管理者として実行」コマンドを使用して Excel を起動します。これを行うには、デスクトップ上の Excel アイコンを見つけるか、Windows エクスプローラで Excel の実行可能ファイルに移動します。プログラム・アイコンまたはショートカットを右クリックして、「管理者として実行」を選択します。

- 17164523 -- 一部の列を削除し、スプレッドシートをリフレッシュした後、選択した POV メンバーがディメンション・メンバーに戻ります。

回避策: 「POV」ボタンをクリックして POV ツールバーを非表示にします。その後、ページ・メンバーを含む列が削除されないことを確認してください。

- 17215221 -- Microsoft Surface Pro タブレットのタスク・リスト・ペインで、アクション・パネルとタスクの詳細にテキストが正しく表示されません。これらの領域のアイテムは縦方向に詰まっているため、各アイテムのフォントの下部が欠けてしまっています。
- 17263827、17636796、17667907 -- Microsoft は、タスク・ペインと Office 2013 内の多くのコントロールに対して、Office アニメーションを有効にしています。これによって、次の状況でちらつきや画面のずれが生じます:
 - フォーム、特に、複合フォームおよびカスケーディング・フォームのオープン中。

- Oracle Hyperion Disclosure Management 拡張機能もインストールされている場合の Smart View のリボンでの「ヘルプ」ボタンからの「バージョン情報」ボックスへのアクセス(17667907 の問題により、共有違反のエラー・メッセージが最初に表示されることに注意してください)

ユーザー・エクスペリエンスを向上させるため、Windows レジストリにキーを追加して 2013 の Office アニメーションを無効にすることもできます。これを行うには、グラフィックスとアニメーション無効化のキーを作成します。

- キー名:

```
[HKEY_CURRENT_USER\Software\Microsoft\Office\15.0\Common\Graphics]
```

- キー値:

```
"DisableAnimations"=dword:00000001
```

このレジストリ・キーを作成する手順については、Windows のドキュメントを参照してください。

- 17201275 -- PowerPoint で「発表者ツールを使用する」オプションが選択されている場合、レポート・オブジェクトをスマート・スライス(関数グリッド、表、POV など)に挿入してスライド・ショーを起動し、スライド・ショーを終了した後、Smart View パネルの「ドキュメント・コンテンツ」パネルが表示されなくなります。
- 18087285 -- 前のセッションでアドインを有効にした場合でも、Windows 7 環境の Outlook 2013 で Smart View のリボンが表示されません。

回避策: Outlook を開くたびに、次のようにして Smart View For Office アドインを再度有効にします。

Outlook の「オプション」、「アドイン」、「COM アドイン」の順に移動し、「Oracle Smart View for Office」を選択します。

Disclosure Management

- 14275486 -- Disclosure Management ドックレットがマスター・ドキュメントに結合されると、表の自動配置フォーマットが消失することがあります。
- 17064057 -- この問題は Windows 8 の Office 2013 64 ビット・プラットフォームで発生します: Disclosure Management の問題により、Oracle Hyperion Web Analysis レポートを問合せ対応モードでインポートすると Excel が終了します。
- 17201226 -- この問題は Windows 8 の Office 2013 64 ビット・プラットフォームで発生します: Disclosure Management 拡張機能が原因で、次の場合に Excel が異常終了することがあります: 「ファイル」メニューの「開く」コマンドを使用して、レポート・デザイナーで作成した保存済のレポートを開き、レポートをリフレッシュしてから、右上隅の「X」をクリックして Excel を閉じる場合。

回避策:

- Windows エクスプローラで、保存済のレポート・ファイルを見つけて、ダブルクリックして開きます。
- Disclosure Management 拡張機能を無効にします。
- 17208840 -- Oracle Hyperion Disclosure Management 11.1.2.3 拡張機能と予測プランニング 11.1.2.3.500 拡張機能の両方がインストールされたマシンで、保存されているレポートを開くと、バージョンの互換性の問題が発生し、次のメッセージのダイアログ・ボックスが複数回表示されます: このドキュメントには、Smart View の現在のバージョンと互換性がない対話型レポート・コンテンツが含まれています。レポート・マネージャで「レポートを変換」をクリックして移行します。

バージョン 11.1.2.3.500 の両拡張機能が同じマシンにインストールされている場合、レポートを開いてもこの問題は発生しません。

Essbase

- 11841013 --スマート・リストのメンバーを変更できない場合があります。
- 12884154 -- Essbase のリボンから「ピボット」を選択して行メンバーをピボットすると、そのメンバーはかわりに POV ツールバーに移動されます。
- 12890030 -- 別名表を変更する場合、POV ツールバーからグリッドにドラッグしたメンバーは失われることがあります。
- 12879435 -- クエリー・デザイナーで、グリッドのメンバー名が名前ではなく別名で表示されることがあります。ただし、名前に一貫性がなくても、問合せは適切に実行されます。
- 12913962 -- 「アクティブ接続の設定」を使用してアド・ホック・ワークシートに接続を関連付けると、リフレッシュ時にメンバーがワークシートから消失することがあります。

回避策: 接続を関連付けるかわりに、ワークシートに対して直接アド・ホック分析を実行します。

- 13516151 -- 複数のディメンションを含む列の一番上のディメンションにズーム・インすると、子の中間に空白列が表示されます。これは、「オプション」ダイアログ・ボックスの「メンバー・オプション」ページで「アドホック操作の式とコメントを保存」を選択した場合に発生します。

回避策: 「アドホック操作の式とコメントを保存」を選択しないでください。

- 13571703 -- POV のディメンションから複数のメンバーを選択し、そのディメンションを POV からシートにピボットしても、選択したすべてのメンバーではなく、1つのメンバーのみがシートにピボットされる結果になります。
- 13854982 -- 属性ディメンションの世代 3 レベルで属性をフィルタ処理した場合、Smart View では世代 2 レベルまでのメンバーのみが表示されます。
- 13729593 -- Firefox 9.x または 10.x を使用している場合、Smart View からドリルスルーを行うと、Oracle Hyperion Financial Data Quality Management, Enterprise Edition のランディング・ページにデータが表示されないことがあります。

回避策: FireFox の「アドオン」メニューに移動して、Smart View 拡張機能が有効になっていることを確認します。

- 14470264 -- HsGetVariable 関数では ASCII 以外の変数値はサポートされません。
- 16200267 -- 「データなし/欠落」および「ゼロ」抑制オプションが選択された状態でズーム・インすると、シートに空の行を含む出力が生成されます。
- 16560751 -- Essbase のリボンで「ピボット」ボタンをクリックすると、行から列へのピボットが失敗し、POV へのピボットが実行されます。列から行へのピボットは正常に動作します。
- 16607593 -- 計算済メンバーを指定した(WITH MEMBER...) MDX 問合せを Excel で実行した場合、計算済の値はシート之列にごく短時間表示され、その後コメント列に変換されます。計算済の値はすべて、自動的に、またはリフレッシュを実行すると失われます。

これは、「Essbase」のリボンの「MDX の実行」コマンドを使用しているか、VBA 関数 HypMDXExecute を使用している場合に発生します。

- 16747003 -- 各メンバーを囲む上下左右のセルに式が含まれているグリッドでは、リフレッシュ後に式の一部が失われます。
- 17019256 -- この問題は Windows 8 の Office 2013 64 ビット・プラットフォームで発生します: アド・ホックの実行中またはスマート・スライスの操作中に、Oracle Indirect Spend Planning 拡張機能が有効になっていると、Excel 内でコピーと貼付けを行おうとしたときに Excel が終了します。

回避策: 予測プランニング拡張機能を無効にします。

- 17805612 -- 「操作時のフォーマットの移動」オプションが選択されている場合、Smart View でオーバーラップする条件付きフォーマットを持つスプレッドシートでのアド・ホック操作はサポートされません。リフレッシュと削除はサポートされますが、このオプションを選択して、他の特定のアド・ホック操作を実行すると、Smart View が予期せず終了することがあります。

回避策: 「オプション」ダイアログ・ボックスの「フォーマット」タブで「操作時のフォーマットの移動」オプションを選択解除します。

Financial Management

- 7608591 -- ドイツ語のオペレーティング・システムで、「セル・テキスト」フィールドに入力された数値に複数のゼロが誤って添付されます。たとえば、15 が 1500000 になる場合があります。この問題を回避するには、「セル・テキスト」フィールドに入力する数値の前に一重引用符を付けます(例: '15)。
- 9382988 -- 「フィールドのカスタマイズ」ダイアログ・ボックスで、ショートカット・キーが機能しません。

回避策: このダイアログ・ボックス内のフィールド間で移動するには、[Tab] キーを使用します。

- 14822441、15959703 -- Web フォームに定義されているセルの色は、フォームが Smart View で開かれると保持されません。
- 16319892 -- Web フォームを開いて特定のエンティティ・タイプを選択してから、別の Web フォームを開いたとき、Web フォームを切り替えるとエンティティの POV が[なし]メンバーにリセットされます。

- 16451623 -- 現在の交差部のデータが#Invalid の場合、リフレッシュ時にチャートのデータが正しく更新されません。

回避策: 別のデータが表示される有効なデータ・ポイントにスライダまたは POV を変更してから、「リフレッシュ」を実行します。チャートが正常に更新されます。

- 16451759 -- チャートのコピーと貼付けを正常に行うことができません。“[チャートのコピーと貼付けに関するサポートの制限](#)” on page 36 も参照してください。
- 16898574 -- Financial Management 内からフォームに設定されているスタイル・プリファレンスの一部が、Smart View のフォームに反映されません。
- 17632970 -- Smart View 11.1.2.1.103 で、パイプ文字(|)およびカレット(^)を含むセルを送信すると、送信によってすべてのパイプ文字が削除され、カレットの後に"c"が追加されます。

回避策: カレットまたはパイプ文字を含むセル・テキストを作成しないでください。

Financial Reporting

- 14600458 -- Financial Reporting レポートを EPM Workspace から Smart View にエクスポートする場合、レポートのユーザー POV は保持されません。ユーザー POV のデフォルトは、Smart View で最も最近使用されたユーザー POV です。
- 14643318 -- データ・ソース接続がタイムアウトしたとき、以前に保存した関数グリッドを含むレポートをリフレッシュしようとする、ログイン中に「無効なポインタ」エラーが発生します。

回避策: ワークブックと Excel を閉じます。その後、Excel を再起動してワークブックを開き、リフレッシュを実行します。
- 14600472 -- インポートされた問合せ対応レポートで、リフレッシュ後に一部のライン・アイテムが変化することがあります。
- 16589367 -- Oracle Access Management 環境で Smart View の Financial Reporting 拡張機能を使用するとき、関数グリッドまたは Office 表をインポートすると接続エラーが発生します。

Oracle BI EE

- 14345387 -- Smart View では、階段状および曲線のチャートを直接挿入することはできません。階段状または曲線のチャートを挿入すると、Smart View によって、形状が最も似ているデフォルトの折れ線チャートに置き換えられます。これは予期される動作です。
- 14355587 -- BI Answers でプロンプト用に指定された選択リスト(ラジオ・ボタン・リストおよびチェック・ボックス・リスト)は、Smart View のリスト・コントロールに変換されます。これは予期される動作です。
- 14563557 -- BI Answers の統一スケールの使用オプションを選択または選択解除するには、Smart View でリフレッシュを行うときに「ビューの置換」オプションを使用する必要があります。これは予期される動作です。

リフレッシュのプリファレンスを設定する方法は、Oracle Smart View for Office User's Guide の Smart View と Oracle BI EE の章で、ビューのリフレッシュのプリファレンス指定に関する項を参照してください。

- 14580332 -- Oracle BI EE の勘定科目プリファレンスで設定されているタイム・ゾーン・プリファレンスは、Smart View では公開されません。
- 14583775 -- ダブル列が BI Answers で設定されたときに、「ユーザーがコード列で選択可能」オプションが選択されていると、Smart View ではコード列値に基づくダブル列のプロンプト値は表示されません。
- 14594347、14594221 -- 「Excel 表として挿入」または「Excel ピボット・テーブルとして挿入」を実行するとき、列が Smart View でレンダリングされる順序は、BI Answers のデザイン・モードで指定された順序と一致しないことがあります。
- 14600296 -- プロンプト・セレクトで、ドロップダウン・リストまたはオプション・リストに表示できるアイテム数は 256 までという制限があります。

回避策: BI Answers で instance.config の Prompts/MaxDropDownValues の設定値を増やします。

- 14737958、14750088 -- ビュー・デザイナーでは、ページ・エッジまたはセクション・エッジに、数値型の列を含むビューを作成できません。
- 14780195 -- Oracle BI EE ダッシュボードから Smart View に表ビューをコピーして貼り付けると、分析に静的テキスト・ビューまたはナレーティブ・ビューが含まれる場合に、無効オブジェクト・エラーが発生します。
- 14788102 -- ピボット・テーブルの行エッジのすべての列が非表示になっているときに、ピボット・テーブルを挿入すると、Smart View で障害が発生します。

回避策: 表として挿入します。または、列を除外します。

- 15840478 -- BI Answers でフィルタを追加したとき、そのフィルタが、表示される円グラフの数を定義するディメンションに適用される場合、円グラフがリフレッシュされません。

回避策: 変更が発生するフィルタ列が円グラフ数のディメンションとしても定義されている場合は、チャート・ビューのリフレッシュ・オプションを「ビューの置換」に変更してから、再びリフレッシュを実行する必要があります。これによって正常なリフレッシュが行われ、円グラフの数とチャート・タイトルが新しいデータを反映するように更新されます。

手順は、Oracle Smart View for Office User's Guide のビューのリフレッシュのプリファレンス指定に関する項を参照してください。

- 15840538 -- BI Answers でフィルタを除去したとき、そのフィルタが、表示される円グラフの数を定義するディメンションに適用される場合、円グラフがリフレッシュされません。

回避策: 不具合 15840478 の回避策を参照してください。

- 15886617 -- Smart View が Excel で表示できる桁の精度は、Excel で許可される桁の精度に制限されます。

たとえば、次に示すのは、小数点以下 2 桁の 18 桁のフォーマットです:

123456789123456789.12

Excel の精度の制限は 15 桁であるため、15 桁を超える桁は Excel では 0 に変更され、次のように表示されます:

123456789123456000.00

- 15969695 -- Office 2007 で PowerPoint にチャートを挿入する際にメモリー・エラーが発生します。

回避策: Microsoft Office 2007 Service Pack 3 をインストールします。

- 15993680 -- Smart View 11.1.2.2.310 で保存された Office ドキュメントで、マスクされたイメージ・チャートをコピーして貼り付けると、マスクが解除されます。

Office ドキュメントが Smart View 11.1.2.3 以上で保存されている場合、コピーしたイメージ・チャートを貼り付けてもマスクは維持されます。

- 16809678 -- 「値セクタ」ダイアログ・ボックスでプロンプトを扱う際に、特定の列の値が複数回表示されます。
- 16219221 -- 255 を超えるデータ・ポイントがチャートに含まれており、1つのデータ・ポイントが1つの散布図のポイントまたは1つのバブルを表す場合、散布図およびバブル・チャートが正しく表示されません。

回避策: データ・ポイントを 255 に制限してください。

- 16373849 -- 複合ビューから複数のオブジェクトを PowerPoint に挿入して、「one object per slide」オプションを選択すると、各オブジェクトに対して Excel インスタンスが開き、最小化されて Windows タスクバーに表示されます。ただし、挿入操作が完了しても、Excel インスタンスは自動的にクローズされません。このため、多数のオブジェクトを挿入するときにタスクバーが一杯になる可能性があります。

回避策: タスクバーに表示される Excel インスタンスの数を最小限に抑えるには、「Office」ボタン(Excel の左上)をクリックし、「Excel のオプション」、「詳細設定」タブの順に選択します。「表示」オプションで「すべてのウィンドウをタスクバーに表示する」チェック・ボックスを選択解除します。

- 16055532 -- ピボット・チャートが埋め込まれたピボット・テーブルが Smart View に挿入される時、埋め込まれたピボット・チャートはインポートされません。

回避策: Excel を使用して、挿入された Excel ピボット・テーブルに基づいてピボット・チャートを作成するか、BI Answers を使用して新しいチャート・ビューを作成し、そのビューを Smart View を使用して挿入します。

- 挿入されたネイティブ Excel ピボット・テーブルに基づいてピボット・チャートを作成するには、次の手順を実行します:
 1. Smart View で Excel ピボット・テーブルをクリックし、Excel の「オプション」リボンを選択します。
 2. 「ツール」グループで「PivotChart」ボタンをクリックします。

3. 「チャートの挿入」でチャートのスタイルを選択し、「OK」をクリックします。
- 別のチャート・ビューを作成して挿入するには:
 1. BI Answers で、別に新しいチャート・ビュー・オブジェクトを作成します。
 2. Office アプリケーションで Smart View を使用して、新たに作成されたチャート・ビューを挿入します。

どちらの回避策でも、ピボット・チャートがレンダリングされます。

- 16285804 -- ダブル列にプロンプトが定義されており、選択したプロンプト演算子が「*ユーザーに指示」の場合、次の演算子は実行時に機能しません:
 - 次より小さい
 - 次以下
 - 次より大きい
 - 次以上
 - 次と類似
 - 次と類似しない

回避策: 「*ユーザーに指示」演算子は使用しないでください。かわりに、前述の演算子のいずれかを使用して、演算子を設計時に明示的に定義してください。これで演算子が機能するようになります。

- 16397682 -- 列によってフィルタ処理されたチャートが挿入されたとき、その列がセクション・エッジでも使用されている場合、BI Answers でフィルタのセクションを除去してから元に戻すと、Smart View でリフレッシュしたときにチャートが正しく表示されなくなります。これは予期される動作です。

フィルタが BI Answers で最初に除去される時、残りのチャートは Smart View でリフレッシュ時に正確に表示されます。BI Answers でフィルタが再び追加されてから、Smart View のリフレッシュが実行されると、チャートがシートに再び追加されますが、デフォルトの棒グラフ・フォーマットで表示されます。

これと同じ動作が、チャート・セクションのコピーおよび貼付けを行ってからリフレッシュするときにも発生します。コピーされたチャートは、リフレッシュ後にデフォルトの棒グラフとして表示されます。

回避策: Excel のチャート編集ツールを使用してチャートを編集します。ただし、チャート要素によっては他のチャートの要素と見た目が少し異なることがあります。または、すべてのチャート要素が統一されるようにチャート・ビュー全体を再び挿入します。

- 16520355 -- Word および PowerPoint では、複合ビューを挿入するとき、または複合ビューがカタログから挿入されるかコピーして貼り付けられるときに、表やチャートが重なることがあります。これは、複合ビュー内のオブジェクトが特に大きい場合に顕著です。
- 16531702、16815560 -- BI Office と Smart View が同じマシン上にインストールされている場合、PowerPoint にチャートを挿入して終了した後に、Excel の「保存」ダイアログ・ボックスがさらに表示されることがあります。また、メッ

ページ・ウィンドウがフォーカスされないこともあります。この場合は、手動でウィンドウをフォーカスして終了する必要があります。

回避策: BI Office アドインを無効にします。

- 17044631 -- Oracle BI EE のバージョン 11.1.1.7.0 で大幅にフォーマットされたチャートは、Smart View 11.1.2.5.000 にインポートするときに失敗することがあります。
- 17554116 -- Office ドキュメントに複数のオブジェクトがあり、先に接続せずにドキュメントをリフレッシュしようとする、Smart View で接続を確立するまでオブジェクトごとにログイン資格証明の入力を求められます。
- 18028799 -- Oracle Business Intelligence Answers から Smart View にレポートをコピーすると、Office にインポートされないフォーマットがあります。
- 18056503 -- Smart View は Excel のグラフ・エンジンを使用します。このため、特定のシナリオでは、グラフが Word または PowerPoint に挿入される際、フォーカスが Word または PowerPoint に戻らなかったり、Excel が表示されません。
- 18062691 -- テキストの倍率を適用すると、「プロンプト」ダイアログの一部のボタンが正しく表示されない場合があります。

Planning

- 6533549、6549255 -- メンバー・セルに要約期間の値を計算する式が含まれている場合、そのセルはロックされる必要がありますが、メンバーのデータが変更された場合は、Smart View によってダーティ・セルとしてマークされることがあります。
- 12877317 -- リリース 11.1.2.1 以上の Oracle Hyperion Provider Services を通じて Planning に接続すると、アド・ホック分析、クエリー・デザイナーおよびコピー/貼付け機能が使用できません。

回避策: Planning に直接接続します。

- 14805911、17250666 -- Smart View パネルの Planning アプリケーションから「ユーザー・プリファレンス」ダイアログ・ボックスを起動するときや Smart View でユーザー変数のメンバーを選択するときに、パフォーマンスが非常に遅くなることがあります。
- 14834659 -- 代替変数が使用されている場合に、Web Analysis フォームを Smart View で開くと、フォームの最後の列(一番右の列)が削除されるか非表示になります。
- 16368801 -- 列をフォームにレンダリングするときに、列の高さが誤って表示されます。
- 16721734 -- 「置換」オプションを #NumericZero として指定し(「オプション」ダイアログ・ボックスの「データ・オプション」タブ)、期間のデータを分散する場合に、親データを削除できませんでした。

回避策: #NumericZero を選択するときは、「置換」オプションの「ゼロを送信」も選択されていることを確認します。

- 16898574 -- Planning 内からフォームに設定されているスタイル・プリファレンスの一部が、Smart View のフォームに反映されません。
- 17926504 -- 保存されている Planning グリッドから起動されたアド・ホック分析は、グリッドの一部として保存されたフォーマット・オプションを継承します。

保存されたグリッドから生成されたアド・ホック・グリッドに Smart View のセル・スタイルまたは Excel フォーマットの使用オプションを使用するには、次の手順を実行します:

1. 保存されている Planning グリッドをフォームとして開きます。
 2. Planning のリボンの「フォーマット」グループで、「適用」、「なし」の順に選択します。
 3. 「保存」をクリックして Planning サーバーにフォームを保存します。
 4. 保存したフォームを使用して、アド・ホック分析を実行します。
- 17975749 -- 20,000 個以上のセルのフォームでフォーマットの保存は推奨されません。

Reporting and Analysis

- 6575786 -- Web Analysis レポートの 2 ページを連続してインポートする場合、「リフレッシュ」および「すべてリフレッシュ」が機能しません。

回避策: レポートの複数ページをインポートするには、「すべてのページ」を使用します。

- 6908330 -- EPM Workspace が WebSeal の下にあり、かつデフォルト(<http://<server>:<port>/workspace>)以外のコンテキスト・パス(http://<server>:<port>/<context_path>/workspace)に構成されている場合、Reporting and Analysis ドキュメントは「Workspace ドキュメントのインポート」フォルダ・ツリーに表示されません。
- 7674839 -- Financial Reporting レポートを Smart View にインポートしてリフレッシュすると、Financial Reporting からインポートされたセルを除いて、ワークシートが黒一色になります。

回避策: Excel の「ツール」メニューで、「オプション」を選択します。「色」タブで、「リセット」をクリックして「OK」をクリックします。

- 9160243 -- 次の問題が、Smart View から Excel、Word および PowerPoint にイメージとしてインポートされたダッシュボードに含まれます:
 - イメージ・サイズが、EPM Workspace 内のイメージとは異なります。
 - イメージの周囲に余分な背景領域が表示されます。

回避策: 場合によっては、使用しやすい大きさにグラフィックをサイズ変更できます。ただし、Microsoft Office の制限のために、余分な背景領域は常に表示されます。

- 12564498、12867625、13875551 -- Internet Explorer から Oracle Hyperion Interactive Reporting レポートを Smart View にエクスポートすると、Smart View のリボンが Excel に表示されません。

回避策: Internet Explorer からエクスポートする前に Excel を開きます。

- 14722340 -- Web Analysis または Interactive Reporting に接続しているとき、Word または PowerPoint で「ドキュメント・コンテンツ」機能を使用できません。Web Analysis と Interactive Reporting では Excel での「ドキュメント・コンテンツ」機能しかサポートされません。
- 14800357 -- Oracle Hyperion Financial Reporting、Oracle Hyperion Interactive Reporting または Oracle Hyperion Web Analysis のイメージベースのレポートは、「ドキュメント・コンテンツ」パネルの「削除」オプションを使用して削除できません。

回避策: レポートを含むシート全体を削除します。

- 18002460 -- Windows 8 以降の環境で Reporting and Analysis からレポートをインポートする際、スクリプト・エラーが発生することがあります。

Windows 8 以降には Internet Explorer 11 が標準として含まれていることに注意してください。Internet Explorer が Oracle Hyperion Reporting and Analysis または Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspace でサポートされていない可能性があります。EPM のサポート・マトリックスおよび製品の Readme で、その他のブラウザ・サポート要件を確認してください。

Strategic Finance

- 13698118 -- 開いているレポートでシナリオを変更すると、変更が反映されるのは選択したレポートのみです。勘定科目ビューまたは開いている他のレポートには反映されません。

回避策: 勘定科目ビューでシナリオを変更して、変更内容を開いているすべてのレポートに伝播します。

- 14734597 -- Oracle Hyperion Strategic Finance エンティティを Smart View で開くと、エンティティがロードされているときにシートが上下に分割されます。エンティティのロードが完了すると、分割は解除されます。ワークシートをスクロールしてエンティティが再表示されるときに、いったん分割表示になってから解除されます。

ヒントとトラブルシューティング

- 16073739 -- デフォルトの Oracle Access Manager ログイン・フォームのかわりに html ベースのカスタム・ログイン・ホームを使用している場合、カスタム・フォームのソースに文字列 loginform が含まれることを確認します。これは、Smart View と Oracle Access Manager の統合が機能するために必要です。

ドキュメントの更新事項

Subtopics

- EPM System 製品ドキュメントへのアクセス
- PDF からのコード・スニペットのコピーと貼付け
- Smart View での Oracle BI EE 列のドリル状態の表示
- 共有接続 XML ファイルの HTTP オプションを使用する際のブラウザの設定
- チャートのコピーと貼付けに関するサポートの制限
- 11.1.2.2.102 以前のワークブックでの繰返しメンバーの抑制オプションの使用
- フォームの新しいメンバー・ラベルの繰返しオプション
- HypSetGlobalOption および HypGetGlobalOption 関数の更新
- Essbase でのデフォルトの別名表

EPM System 製品ドキュメントへのアクセス

各 EPM System 製品ガイドの最新版は、OTN Web サイトの EPM System Documentation 領域(<http://www.oracle.com/technology/documentation/epm.html>)でダウンロードまたは参照できます。また、EPM System Documentation Portal (<http://www.oracle.com/us/solutions/ent-performance-bi/technical-information-147174.html>)を使用することもでき、ここには EPM Supported Platform Matrices、My Oracle Support およびその他の情報リソースへのリンクも含まれています。

デプロイメント関連のドキュメントは、Oracle Software Delivery Cloud Web サイト (http://edelivery.oracle.com/EPD/WelcomePage/get_form)からも入手できます。

個々の製品ガイドは、Oracle Technology Network Web サイトからのみダウンロードできます。

PDF からのコード・スニペットのコピーと貼付け

PDF ファイルからコード・スニペットを切り取って貼り付ける際、貼付け操作時に一部の文字が失われる場合があります、これによりコード・スニペットが無効になります。

回避策: HTML バージョンのドキュメントから切り取って貼り付けます。

Smart View での Oracle BI EE 列のドリル状態の表示

階層列に関連するドリル状態情報は、ビュー定義に格納されます。表ビューまたはピボット・テーブル・ビューが、それぞれ Excel 表ビューまたは Excel ピボット・テーブル・ビューとして挿入される場合、これらのフォーマットには基準定義の列情報のみ使用され、ビュー定義情報は使用されません。したがって、ドリル状態情報は、Smart View に挿入された Excel 表ビューおよび Excel ピボット・テーブル・ビューに表示されません。ビューが階層列でドリルされる場合、他のフォーマット(通常を表ビューまたは通常のパivot・テーブル・ビューなど)を使用してこの情報を表示することをお勧めします。

共有接続 XML ファイルの HTTP オプションを使用する際のブラウザの設定

16231447 -- HTTP サーバーにある XML ファイルから共有接続にアクセスする予定がある場合は、このトピックの手順を実行します。

Smart View の「オプション」ダイアログ・ボックスの「共有接続 URL」フィールドで、データ・ソース XML ファイルを指す URL を正しく使用するために、Internet Explorer で次のオプションを設定することをお勧めします:

1. 「ツール」、「インターネット オプション」を選択します。
2. 「全般」タブの「閲覧の履歴」グループで「設定」を選択します。
3. 「保存しているページの新しいバージョンがあるかどうかの確認」セクションで「Web サイトを表示するたびに確認する」を選択して、「OK」をクリックします。
4. 「インターネット オプション」ダイアログ・ボックスで「詳細設定」タブを選択します。
5. 「セキュリティ」セクションで「ブラウザを閉じたとき、[Temporary Internet Files] フォルダを空にする」オプションを選択します。
6. 「OK」をクリックして「インターネット オプション」を閉じ、ブラウザを再起動します。

チャートのコピーと貼付けに関するサポートの制限

16451759 -- チャートのコピーと貼付けがサポートされているのは、Oracle Business Intelligence Enterprise Edition のチャートのみです。他のプロバイダ(Financial Management など)に基づくチャートは正しく貼り付けられません。

11.1.2.2.102 以前のワークブックでの繰返しメンバーの抑制オプションの使用

17001455 -- Oracle Smart View for Office User's Guide の繰返しメンバーの表示と非表示に関する項に、次の情報が含まれていませんでした。リリース 11.1.2.5.200 でワークブックを使用し始める前に、次の手順を実行する必要があります。

11.1.2.2.102 以前のバージョンの Smart View、Essbase および Oracle Hyperion Provider Services で作成および使用されたスプレッドシートを使用する場合、行および列データが親メンバーに対して正しく整列されるようにするために、次の手順を実行する必要があります:

1. ワークブックのバックアップ・コピーを作成します。
2. 「オプション」ダイアログ・ボックスの「データ」タブで、「繰返しメンバー」・オプションを選択解除します。
3. ワークブックをリフレッシュします。ワークブック全体をリフレッシュするか、各シートを個別にリフレッシュします。

4. 「オプション」ダイアログ・ボックスの「データ」タブに戻り、「繰返しメンバー」・オプションを選択します。
5. リフレッシュ操作を再度実行します。
ワークブックを Smart View 11.1.2.5.200 で使用する準備ができました。

フォームの新しいメンバー・ラベルの繰返しオプション

17649321 -- 「メンバー・ラベルの繰返し」という新しいフォーマット・オプションが Oracle Hyperion Planning および Oracle Hyperion Financial Management のフォームに導入されています。このオプションでは、データの各行にメンバー名を表示することができ、フォームの可読性が増します。

繰返しメンバーが1つのセルにマージされるフォームでは、メンバー名が画面表示外になり、メンバー名と行データの間でスクロールを繰り返す必要が生じることがあります。「オプション」ダイアログ・ボックスの「フォーマット」タブで、「メンバー・ラベルの繰返し」を選択すると、フォームの読取りと使用が簡単になります。

HypSetGlobalOption および HypGetGlobalOption 関数の更新

17929955 -- 下位互換用に、Smart View 11.1.2.5 より前のリリースで作成されたシートでのプロファイリング・オプションの設定でのみ HypSetGlobalOption(5, 5)がサポートされます。この VBA 文は、Smart View 11.1.2.5 以上で作成されたシートでのプロファイリング・オプションの設定ではサポートされません。

Oracle Smart View for Office 11.1.2.5.200 では、HypGetGlobalOption(5)を使用してプロファイリング・オプションのステータスを取得すると、-69 (SS_VBA_DEPRECATED)という値が返されます。かわりに、次の関数を使用してプロファイリング・オプションを設定します:

- HypGetGlobalOption(20)および HypSetGlobalOption(20)
- HypGetGlobal(119)および HypSetOption(119)

Essbase でのデフォルトの別名表

18092554 -- Oracle Essbase のアド・ホック分析を開始すると、デフォルトという名前の別名表がデフォルトで選択されます。

ドキュメントのフィードバック

製品のドキュメントに対するフィードバックを次の電子メール・アドレスに送信してください:

EPMdoc_ww@oracle.com

次のソーシャル・メディア・サイトの EPM Information Development をフォローしてください:

- YouTube - <http://www.youtube.com/user/OracleEPMWebcasts>
- Google+ - <https://plus.google.com/106915048672979407731>
- Twitter - <https://twitter.com/HyperionEPMInfo>
- Facebook - <https://www.facebook.com/pages/Hyperion-EPM-Info/102682103112642>
- Linked In - http://www.linkedin.com/groups?home=&gid=3127051&trk=anet_ug_hm

アクセシビリティの考慮事項

オラクル社は、障害のあるお客様にもオラクル社の製品、サービスおよびサポート・ドキュメントを簡単にご利用いただけることを目標としています。EPM System 製品でサポートしているアクセシビリティ機能は、製品のアクセシビリティ・ガイドを参照してください。このガイドの最新版は、Oracle Technology Network の Oracle Enterprise Performance Management System Documentation Library (<http://www.oracle.com/technology/documentation/epm.html>)で入手できます。

また、この Readme ファイルは HTML 形式で提供され、アクセシビリティ機能がサポートされます。

COPYRIGHT NOTICE

Smart View Readme, 11.1.2.5.200

Copyright © 2004, 2014, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

Authors: EPM Information Development Team

Oracle and Java are registered trademarks of Oracle and/or its affiliates. Other names may be trademarks of their respective owners.

Intel and Intel Xeon are trademarks or registered trademarks of Intel Corporation. All SPARC trademarks are used under license and are trademarks or registered trademarks of SPARC International, Inc. AMD, Opteron, the AMD logo, and the AMD Opteron logo are trademarks or registered trademarks of Advanced Micro Devices. UNIX is a registered trademark of The Open Group.

This software and related documentation are provided under a license agreement containing restrictions on use and disclosure and are protected by intellectual property laws. Except as expressly permitted in your license agreement or allowed by law, you may not use, copy, reproduce, translate, broadcast, modify, license, transmit, distribute, exhibit, perform, publish, or display any part, in any form, or by any means. Reverse engineering, disassembly, or decompilation of this software, unless required by law for interoperability, is prohibited.

The information contained herein is subject to change without notice and is not warranted to be error-free. If you find any errors, please report them to us in writing.

If this is software or related documentation that is delivered to the U.S. Government or anyone licensing it on behalf of the U.S. Government, the following notice is applicable:

U.S. GOVERNMENT END USERS:

Oracle programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, delivered to U.S. Government end users are "commercial computer software" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, shall be subject to license terms and license restrictions applicable to the programs. No other rights are granted to the U.S. Government.

This software or hardware is developed for general use in a variety of information management applications. It is not developed or intended for use in any inherently dangerous applications, including applications that may create a risk of personal injury. If you use this software or hardware in dangerous applications, then you shall be responsible to take all appropriate fail-safe, backup, redundancy, and other measures to ensure its safe use. Oracle Corporation and its affiliates disclaim any liability for any damages caused by use of this software or hardware in dangerous applications.

This software or hardware and documentation may provide access to or information on content, products, and services from third parties. Oracle Corporation and its affiliates are not responsible for and expressly disclaim all warranties of any kind with respect to third-party content, products, and services. Oracle Corporation and its affiliates will not be responsible for any loss, costs, or damages incurred due to your access to or use of third-party content, products, or services.

ORACLE®